

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	林 裕二	職名	教授	学位	修士 (文学) (西南学院大学 1993 年)
----	------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研 究 課 題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画 (脚本) を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担 当 授 業 科 目
人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科) 初年次セミナー I (前期) (観光文化学科) 基礎英語 (前期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科) 専門演習 I (前期) (観光文化学科) 北九州の技と文化 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科) 応用英語 (後期) (観光文化学科) 応用 TOE I C 演習 (後期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ応用 (後期) (観光文化学科) 専門演習 II (後期) (観光文化学科) 卒業研究 (通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>【人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科)】</p> <p>人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目 (100 分 7 回) の 3 年目にあたる。人文学部の担当教員 7 名がそれぞれ 1 コマ担当する。人文学部での学びの導入として、先ずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。2019 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の約束事がシラバス (配布) にどのように示されており、それをどう理解するかにも触れた。担当は 2 回目分のみ。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナー I (前期) (観光文化学科)】</p> <p>1 回目は大学全体で受講し、2 回目以降は学科の専任教員が担当する。専任教員 7 人で 1 学年の学生を均等に割り振りした少人数のクラス編成として、一人の教員が残りの 13 回を担当。先ずは学生間の人間関係を作らせ、学習集団への帰属意識をもたせようとした。そのためには授業の手法として遠隔授業でも、グループワークを取り入れた。7 名の学生からのクラスで非常にコントロールがしやすく、遠隔授業でもコミュニケーション能力の高め方を学び、グループとしての自主的な学習の動機付けを高めた。</p>
<p>授業科目名【基礎英語 (前期) (観光文化学科)】</p> <p>観光文化学科の専門必修科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目の 3 年目である。1 年次の学年を二分割したクラスサイズである。授業では基礎的な 4 技能を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところには、丁寧に繰り返し説明をした。対面授業時には行っている E-learning の CHIeru と英文多読活動は、実施しなかった。</p>

<p>授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎（前期）（観光文化学科）】</p> <p>2019年度の新規科目の2年目。E-LearningのCHJeruを使う必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、ほぼ毎回課題を出し、理解度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるようにした。授業最初に小テストを毎回行い、遠隔でも遅刻者が出ないようにした。1年次の基礎英語、応用英語のCHJeru学習の体験が生きた。</p>
<p>専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科）</p> <p>2017年度入学生までは、3年次の演習研究科目は、専門演習Ⅱ（通年科目）だった。それを、2018年度入学者からは、前期後期のそれぞれの半期科目として分離した。文献の探し方、人前でのわかりやすいプレゼンテーションの仕方の学びや、新聞・雑誌等を使つての読み・書きの研究の基本を学ばせた。</p>
<p>北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科）</p> <p>2020年度の新規科目。短期大学部が先行した同名の授業があり、その知見を援用しながら、外部講師を招いて、科目名に相応しい内容となるように工夫した。外部講師には、打ち合わせ段階で、100分を遠隔で行う際の学習効果を上げるための休憩の入れ方、資料の提示の仕方等を説明した。120名を超える履修者が、それぞれの回の最後には活発に質問をしてくれた。これは遠隔だからこそできたという側面もある。</p>
<p>応用英語（後期）（観光文化学科）</p> <p>授業では基礎的な4技能を伸ばすことを目的とした。これは前期の基礎英語でも目指したのもでもある。但し、前期後期でクラスが異なる。前期の「基礎英語」ではできなかった学習活動として、E-learningのCHJeruの学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、対面授業となった後期最初に授業外でそれぞれの活動についての講習会を行った。対面授業時には、これらの講習会は4月の新入生オリエンテーションで行っている。CHJeruの学習マイルコンテストで、上位者を表彰するという事で、学習の動機づけとした。予習をサボりがちな学生対策案が学生から出され、取り入れると効果があった。</p>
<p>応用TOEIC演習（後期）（観光文化学科）</p> <p>TOEIC演習シリーズの中での応用レベルである。応用とはしているが、基本的な文法力を養うことは必要であり、そこを強化しながら、リスニングや読解力を更に伸ばそうとして、少人数を生かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。音読の課題として、音読を録音させ、それを提出させた。これは個別指導が非常にしやすかった。</p>
<p>マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）</p> <p>前期マルチメディアイングリッシュ基礎で得た力を、更に継続して伸ばす授業である。1か月間は対面ができたが、コロナ禍ではペア学習等ができなかった。11月から遠隔に戻り、遠慮なく音読をさせられるようになり、グループ学習も可能となり、対面に負けない学習の質と量を確保できたと考える。CHJeruの学習マイルコンテストで、上位者を表彰した。</p>
<p>専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科）</p> <p>プレゼンテーションスキルを伸ばし、文献をさがす方法、文献をどう解釈して、論文・レポートに生かすかを繰り返し、輪読を通して実践していった。学生が見つかる文献がオンライン上のものにかかなり限定されており、本の利用までは深まらなかったことは、次年度の卒業研究で補う必要がある。</p>
<p>授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科）】</p> <p>10名からなるクラス。卒論指導については、学年当初は全体指導を、そして年度が進むにつれて、個別指導の時間を増やしながら、卒論制作に取り組ませた。質的研究を取り入れることを3年の最初には伝えていたが、どうしても就職活動との関係で、取り組みが遅くなる傾向がある。今回は特にコロナの影響が大きく、遅くなり、大半がオンラインでのアンケートとなった。デジタル世代の学生であり、いろいろなツールを使いこなして、アンケートを実施していた。10月の対面授業時に図書館から本を借りていた学生とそうではない学生の間では、参考文献の取り込み方が大きく違っていた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部会長 (2010年2月～2018年9月) 本部理事 (2015年11月～2019年10月) 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る)	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(ATEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査 (2006年1月～2011年12月) 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 紀要査読委員 (2018年1月～現在に至る) 九州支部副支部長(2008年10月～2011年10月) 九州支部運営委員 (2012年1月～現在に至る)	1994年2月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員 (2011年9月～2015年6月)	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月～現在に至る) 本部事務局長・理事	2002年10月～2004年3月 2003年4月～2009年3月 2010年2月～現在に至る
万葉学会		2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 英語の俳句	単	2020年5月	The Asahi Shimbun Asahi Haikuist Network <a href="http://www.asahi.com/ajw/articles/13332016">http://www.asahi.com/ajw/articles/13332016</a>	日付は2020年5月1日
(学術論文)				
(翻訳)				

2020年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究実績 総数 (2021. 3.31 現在) 著書 1 (内訳 単1、共0) 学術論文 0 (内訳 単0、共0) 翻訳 0 (内訳 単0、共0) 学会発表 0 (内訳 単0、共0)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 ( ) 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
財団法人日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接委員	1995年8月～現在に至る

学内における活動等 (役職、委員、学生支援など)

人文学部長 2018年4月1日～現在に至る
-----------------------